



愛知陸協広報

第55号

令和4年3月31日発行

一般財団法人 愛知陸上競技協会

〒460-0012 名古屋市中区千代田二丁目19番16号 ハレラニ千代田ビル301

電話 (052) 249-4363 ファックス (052) 249-4366

ホームページ: url <http://www.aichi-rk.jp/>

令和3年度を振り返って

専務理事 稲垣 裕

当初開催予定であった2020年の東京オリンピック・パラリンピックが、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大に伴い一年延期となり、無観客での開催となりました。日本で57年ぶりの開催となり、世界のトップアスリートが集うオリンピックは、我々に計り知れない感動を与えてくれました。愛知陸協関係者では、メダルに最も近い種目として期待されていた男子20kmWで、山西利和選手（愛知製鋼）が灼熱の札幌で堂々の銅メダルを獲得しました。3年後の金メダルに期待したいと思います。その他、男子50kmWの丸尾知司選手（愛知製鋼）、男子3000mSCでは、山口浩勢選手（愛三工業）、男子マラソンの服部勇馬選手（トヨタ自動車）、女子マラソンの鈴木亜由子選手（日本郵政）、男子棒高跳では山本聖途選手（トヨタ自動車）が日本代表として出場しました。それぞれ選手の健闘を称えたいと思います。

次に、本県選手の活躍を一部紹介します。6月の日本選手権では、男子1500mで河村一輝選手（トーエネック）が優勝。同選手は、その後の大会で日本新記録を樹立しました。

7月から8月にかけて「輝け君の汗と涙」福井インターハイが開催されました。特筆すべきは中京大中京高が2位に10点の大差をつけて、3年ぶり2度目の女子総合優勝を成し遂げたことです。監督、コーチ、選手の皆さんの弛まない精進に敬意を払いたいです。その他、男子110mHで西徹朗選手（名古屋高）が高校新で優勝、男子400mHで高橋遼将選手（中京大中京高）が優勝、女子4×100mRで中京大中京高が優勝、女子800mで青山理奈選手（中京大中京高）が優勝するなど愛知勢の健闘が光りました。

茨城での全日本中学選手権では、男子3000mで佐々木哲選手（愛工大名電中）が2位、女子1500mで林彩夢選手（鶴城中）が2位と活躍しました。横浜での全国小学生陸上では、5年女子100mで加藤光桜選手（豊橋陸上）が2位、男子コンバインドA（80mH、走高跳）で加藤遼大選手（へきなん陸上）が4位と健闘しました。残念ながら三重国体は大会の直前に中止となり、東海地区5県でフレンドシップ大会としてミニ国体を開催しました。

駅伝関係では、全国都道府県対抗女子駅伝で愛知県チームは7位と大健闘。全日本大学女子駅伝で名城大学が史上2校目の5連覇の偉業を達成しました。ニューイヤー駅伝では、トヨタ自動車が5位、全国中学女子駅伝では矢作北中が7位とそれぞれ上位入賞を果たしました。愛知陸協では今年度も若い選手の活躍が著しく、来年度への期待が大きく膨らみます。指導者の皆様方のご尽力の賜物と深く感謝いたしております。

最後に、コロナ対策で苦勞したウィメンズマラソンの運営にご協力をいただきました関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

光る活躍！ 駅伝・長距離

1月1日に行なわれた全日本実業団対抗駅伝でトヨタ自動車が5位に入賞、1月16日の都道府県対抗女子駅伝で愛知県チームは7位と2年ぶりの入賞。これに先立つ12月の大会では、19日の全国中学校駅伝大会の女子の部で岡崎市立矢作北中学校が7位入賞。26日の全国高等学校駅伝競走大会でも女子の部で安城学園が入賞にあと一步の11位。また2月6日の別府大分マラソンで、トヨタ自動車の西山雄介選手が2時間07分47秒の初マラソン歴代2位の好記録（大会新記録）で優勝しました。さらに、3月5日の世界競歩チーム選手権で山西利和選手（愛知製鋼）が20km競歩で優勝し、団体戦でも日本の2位に貢献しました。



ゴールする西山雄介選手

専門委員会報告

総務委員会

2022年度の登録が3月1日から始まりました。公認の陸上競技大会等に審判員・競技者として参加するためには、愛知陸協に登録し、日本陸上競技連盟の登録会員にならないとできません。登録をお願いします。

2022年度の登録申請期間は、3月1日～2023年1月10日までです。

2022年度の登録担当者・申請先を掲載します。(転勤等で、担当者の所属先が変わる場合があります。)

一般団体・個人

尾張 名古屋	門脇 良佑 赤司 学	尾北高等学校 名古屋市千種区自由ヶ丘2-16-1 シティーコーポ自由ヶ丘303
西三河 東三河	山村 晃泰 山本 誠司	安城東高等学校 豊丘高等学校

大学生

全 県	愛知陸協事務局	052-249-4363
-----	---------	--------------

高校生

尾張 名古屋北 名古屋南	浜田 倫昌 小林 諭 小田垣充雅	津島北高等学校 山田高等学校 名古屋女子大学高等学校
知 多 西三河 東三河	佐藤 洋平 小野田 基 中村 昭広	東海樟風高等学校 三好高等学校 豊橋工科高等学校

中学生 (学校・クラブ・個人)

尾張 名古屋	山内 紀行 三浦 雅史	古知野中学校 吉根中学校
愛日・知多 西三河 東三河	才賀 寛樹 細井 太郎 岡田 淳史	日進中学校 夏山小学校 豊橋・青陵中学校

小学生友の会

尾張 名古屋	八代香津子 一力 俊雄	愛西市勝幡町字後田397-2 名古屋市緑区大将ヶ根2-434 TSメゾンN102
西三河 東三河	小林 良博 手嶋 修次	岡崎市真伝吉祥1-21-7 蒲都市緑町16-19

(水野 隆夫)

競技委員会

コロナ禍の中、競技役員の方々に協力いただき、今年度の競技会を無事終えることができました。多くの審判の方々にご心配とご迷惑をおかけしました。また、快く協力をいただきありがとうございます。

2021年度シーズンも名古屋ウィメンズマラソン2022を最後に幕を閉じました。残念ながら、市町村駅伝、穂の国・豊橋ハーフマラソン、読売・犬山ハーフマラソンは中止になりました。

いよいよパロマ瑞穂スタジアムの改築が始まりました。2026年のアジア大会に向けて、若い審判の方々に力を付けていただきたいと思います。ベテランの方のご指導の

下、愛知陸協として力を合わせて行きたいと思っております。是非ご協力宜しくお願いします。

各競技会に関して要覧に出っていますが、変更があるときもあります。申し込み等は、陸協ホームページで大会要項や競技注意事項をよく確認して間違いのないようにしてください。

新たなルールの確認をしていただき、2022年度の競技会がスムーズに行なえるようご協力をお願いします。また一部の大会では、特別なルールを適用する事もあるのでよく確認をしてください。

一年を通して、愛知では一般から小学生の競技会まで幅広く陸上競技が行なわれています。多くの競技者が出場しそれを支える競技役員、補助員によって競技会が運営されています。それぞれが協力し合って、競技者がよりよい環境で競技できるようにご協力をお願いします。

(榊原 茂)

施設・用器具委員会

1.「全国区域技術役員会議」および「検定員・技術役員合同実技研修会」への参加報告

(1) Web会議 [講義]

技術役員として活動するにあたり、陸上競技場およびマラソンコース等の検定に必要な知識を習得(復習)する会議が、昨年11月20日(土)と21日(日)の2日間に渡って行なわれました。

慣れないWeb会議システムを用いての開催ですが、事前に接続テストを行っていたので、スムーズに会議は開始されました。これまで一つの会場に集まり会議を行ってききましたが、この形式であれば移動時間などが短縮できるので、県内で別の用を済ませてからでも会議に参加でき、非常に良かったと思います。

会議の内容については、こちらが理解しているのか丁寧に確認しながら進行していたので、技術役員として改めて確認する箇所もありました。これからの2年間の任期の検定に向けて、準備ができたと思います。

(2) 実技研修会

実技については今回、新型コロナウイルスの感染症対策を取りながら近隣の県で集まり、陸連の検定員が出向いて行なう形になりました。東海地区では、愛知県が会場に選ばれ、昨年8月にオープンしたばかりの朝宮公園陸上競技場「スポーレ春日井」にて、12月25日(土)に実施されました。

全国で1箇所が集まって行なうと、どうしても人数の関係で実技回数が少なくなってしまうのですが、今回は少人数のため多くこなすことができました。また、通常の検定では本部を除く県外の検定員と一緒に行なう事がないので、その検定員から実技を教わった事は貴重な体験となり、他県の情報なども詳しく教えていただける有意義な機会でした。

(南 康次郎)

2. 新規区域技術役員就任のご挨拶 (委嘱は4月1日以降)

4月より技術役員をさせていただくことになりました県立豊田高校教諭の村瀬(専門教科は英語)です。私自身が、愛知県と陸上競技に育てていただいた恩に報いるため、今回、責任ある役目をいただけることに感謝し、平川検定員、

クラブ紹介④⑨ CROSSOVER (クロスオーバー)

CROSSOVERは2021年に発足した名古屋市近郊の社会人を対象にした市民ランニングチームです。チーム名は「クラブ員同士の壁や垣根を越える」という意味合いに由来します。

発足した経緯ですが、2020年から続くコロナ禍により、試合や練習環境が奪われ、市民ランナーとして走るモチベーションが低下する中、そうした環境をどうにか打開できないかと、私が中心となり、SNS等を通じて多くのランナーに練習しないかと呼び掛けた事が始まりです。制限がある中ではありますが、練習試合や駅伝等を企画し、モチベーションが下がらないよう工夫してきました。そうした活動を1年程継続していく中、本格的に陸連登録してはどうかという意見もあり、この度正式なチームとして、愛知陸協に加盟させていただきました。

活動日は主に水曜日の午後と土曜日の午前で、水曜日はトラックを使用したスピード練習、土曜日はロードを利用した距離走が中心となっています。なおメンバーの走力は

5000mで例えると14分台～16分台と幅広いですが、なるべく全員が同じメニューをこなせるよう決められたメニューに対して各自が調整しています。

今後の目標としては、愛知選手権や東海選手権の長距離種目で多数出場、11月開催の中山道駅伝優勝、国際マラソン大会の上位進出など高い目標を掲げています。また、いずれは中部実業団駅伝への参入も視野に入れています。

なお、CROSSOVERの名前の由来どおり、どのようなランナーでもやる気さえあれば大歓迎です。また、高校生や大学生でメンバー不足など満足な練習ができない場合も、ぜひ一緒に練習できればと思います。その際は下記アドレスにご連絡ください。まだまだ若いチームですが、名古屋や愛知県を盛り上げられる市民ランニングチームを目指して頑張ります。

連絡先メールアドレス：idaten1430@gmail.com

(野崎 洋平)



クールダウンの様子



部内駅伝での集合写真

南技術役員を始めとした諸先輩についてしっかり勉強していきます。

公認競技会を開くための整備をすることはもちろんですが、その中で学んだことを子ども達や若手の競技者に還元していきたいと考えております。

競技場などでお世話になることが更に増えますが、よろしく願います。(村瀬 義彦)

3. 名古屋ウィメンズマラソンコース更新検定について

公認期間の満了する昨年8月末までに予定していた更新検定が、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で延期となり、今年1月8日の午後から準備と最終打合せを行ない、翌9日の早朝4時から正午に渡って実施されました。

日本陸連から福島(A級)計測員をお迎えし、本県の桑原(B級)計測員と平川(C級)の3名で測定した結果、全長で1.07m短い結果となり、第2折返し「康生通2」交差点で調整し、陸連の審査を受け2026年8月末まで公認の継続を得ることができました。

当日は、当委員会の委員(青木、砂子間、吉越、世古の各氏)4名とマラソン事務局の方々、および県警のパトカー1台と多数の警備員の皆様の協力ももちまして、怪我や事故も無く無事に終えることができました。



35km地点でジョーンズカウンター*の数値を記録する計測チーム [写真提供：マラソンフェスティバルナゴヤ・愛知実行委員会事務局]

※前輪に装着して回転数を数える装置

(平川 貴之)

審判委員会

2021年度の各種競技会へのご協力につきまして、誠にありがとうございました。とりわけ、コロナ対策に力を注がざるを得ない状況の中、大過なく競技会が実施できたことに、紙面を借りてお礼申し上げます。2022年度も引き続きご協力を賜りますようお願いいたします。

さて、先日、日本陸連からS級公認審判員昇格者の通知がありました。

尾張地区	佐藤 武夫 様		
名古屋地区	進藤 實 様	大野 昭児 様	
	竹内 基文 様	藤河 伸晴 様	
西三河地区	小野尾一乗 様	夏目 恒男 様	
	明星 光信 様		
東三河地区	鈴木 靖 様		

以上9名の方々が昇格されました。

また、A級公認審判員昇格者につきましては、尾張地区3名、名古屋地区4名、西三河地区6名、東三河地区2名の方々が本協会理事会にて承認されました。

審判員資格の昇級につきましては、ご承知の通り、一定数の競技会への出席と各地区で毎年3月中下旬に開催される審判講習会への出席が必要となりますので、ご参加をお願いします。

本年度のB級公認審判員合格者につきましては、前期20名、後期42名でした。来年度の各種競技会へ積極的に出席していただき研修を積んでください。

本県の公認審判員数はS級113名、A級134名、B級828名、合計1075名となりました。このうち女性は225名で全体の約2割です。全国的にも同様な傾向にあり、女性審判員の養成が課題の一つであります。また、公認審判員資格として、毎年度の登録が必要です。何らかの理由で登録ができていない方々があるようです。登録の時期が来ておりますので、お忘れなきようお願いいたします。

2022年度もコロナ対策をはじめ、何かと課題を抱えながらも、審判員の皆様のご理解とご協力を得ながら進めてまいりたいと思っておりますので、よろしくようお願いいたします。

(伊藤 明久)

選手強化委員会

皇后盃 第40回全国都道府県対抗女子駅伝報告

年末年始の代表者合宿・練習会を経て、令和4年1月16日(日)第40回全国都道府県対抗女子駅伝が京都で行なわれました。絶対的なエースのいない今年のチーム愛知は、チームワークを試される大会となりました。前回は20位という結果で連続入賞を10でストップさせてしまい、選手・スタッフとも涙を流し強い愛知復活を誓い合った大会でした。今年は復活への大切な大会でした。それと同時に、女子チームが京都に向かう前日に知らされた都道府県対抗男子駅伝中止から、一緒に年末・年始の休みを返上して合宿・練習会を頑張ってきた「男子の分まで頑張ろう!」という、特別な大会でもありました。

1月16日(日)12時30分京都西京極運動公園陸上競技場(たけびしスタジアム)に鳴り響いた号砲とともに、1区荘司麻衣選手(ユニクロ)が新生愛知のスタートを切りました。田中希実選手(兵庫県)・五島莉乃選手(石川県)が前半から飛び出すハイペースのレースの中、故障明けの不安を抱えながらも第二集団で冷静に自分の走りを守り、区間26位トップとの差1分15秒(8位との差38秒)で2区山本有真選手(名城大)にたすきリレーをしました。全日本大学女子駅伝連覇中の名城大学エース格の山本選手は、37回の都道府県駅伝優勝時のメンバーでもあり、豊

富な経験と負けん気の強さで前を走るチームを追走し、5人抜きの総合21位で3区の待つ中継所へとび込みました。3区林彩夢選手(鶴城中)も若さ溢れる元気な走りでも5人を抜き総合16位と、しっかり役割を果たしてくれました。4区磯部早良選手(安城学園高)は区間9位の粘りの走りで、しっかり順位をキープして5区杉浦未蘭選手(岡崎学園高)へたすきを繋ぎました。杉浦選手は膝に不安を抱えながらも攻めの走りで2つ順位を上げ、総合14位の力走を見せてくれました。6区小笠原安香音選手(豊田自動織機)は前夜ミーティングで「前回のようなしょぼい走りはしません!」と力強く宣言し、その宣言どおり区間4位の快走で総合9位まで順位を押し上げて7区森彩純選手(豊川高)へ笑顔のたすきリレーをしました。この段階で入賞圏内8位に一時1分近くあった差が、わずか2秒のところまでできていました。ただ9位から12位までもわずか19秒という入賞争いも激しい混戦となっていました。愛知を数秒の差で追いかけてくるチームには、廣中璃梨佳選手(長崎)・一山麻緒選手(鹿児島)・和田有菜選手(長野)といった日本を代表する選手が控えていました。7区・8区の2人の走り次第で結果が大きく変わるプレッシャーの中、普段は物静かな森選手が内に秘めた闘争心で区間8位の走りをし、1人抜く総合8位と順位をさらに上げ入賞圏内で8区へと繋げました。8区杉浦華夏選手(西端中)も2区から18人抜きをしてきた仲間の勢いで、背中を押されると同時に心に火をつけられていました。前夜目標タイム10分50秒と控えめな宣言をしていた杉浦選手でしたが、区間5位(愛知県8区新記録)の9分57秒という素晴らしいタイムで走り抜き、総合6位で9区アンカー吉川侑美選手(ユニクロ)へとたすきを渡しました。吉川選手は12月の山陽ロードレース大会のハーフマラソンで日本人トップとなる1時間10分07秒で走り、今年の世界ハーフマラソン日本代表有力候補となる結果を残し、今回は残念ながら欠場となった愛知の絶対的エース鈴木亜由子選手(日本郵政)に勝るとも劣らないチーム愛知のアンカーとして9区中継所に立っていました。愛知県民の期待とチームの仲間・男子チームの想いを背負って10キロ先のゴール西京極陸上競技場を目指し走っていきました。見事区間6位32分20秒と、ここまで長年の彼女の苦勞を吹き飛ばす走りを披露してくれ、総合7位の2時間17分32秒でゴールを駆け抜けてくれました。強い「チーム愛知」の復活劇を見事完成させてくれました。

実はチーム愛知の物語はここで終了でなく、15年間女子監督として務めていただいた米田勝朗監督(名城大)の最後の采配と、新たに監督を務めていただく松田三笠新監督(豊田自動織機)の船出という、チームにとっては大切な日でもありました。吉川選手から10区米田監督へ、そして米田監督から11区松田新監督へと無事第40回全国都道府県対抗女子駅伝のたすきは繋がりました。

15年間で10年連続入賞(うち2回は優勝)と、今大会の入賞という輝かしい歴史を築き上げてくださった米田監督に対して、この場をお借りして心よりお礼申し上げます。名城大学女子駅伝部の全日本女子大学駅伝の史上初6連覇への挑戦を、駅伝強化部だけでなく愛知陸上競技協会一同、心から応援させていただきます。長い間本当にありがとうございました。お疲れさまでした。

女子第40回チーム愛知の選手および成績は次のとおりです。

総合 第7位 2時間17分32秒 (愛知県歴代6位)

区間	氏名(所属)	記録	区間順位
1区	荘司 麻衣(ユニクロ) F	19分56秒	26位
2区	山本 有真(名城大)	12分48秒	11位
3区	林 彩夢(鶴城中)	9分52秒	12位
4区	磯部 早良(安城学園高)	13分05秒	9位
5区	杉浦 未蘭(岡崎学園高)	13分34秒	17位
6区	小笠原 安香音(豊田自動織機)	13分04秒	4位
7区	森 彩純(豊川高)	12分56秒	8位
8区	杉浦 華夏(西端中)	9分57秒	5位
9区	吉川 侑美(ユニクロ) F	32分20秒	6位

(Fはふるさと選手)



集合した総合7位入賞の愛知チーム

本年度も多くの皆様から、大会期間中たくさんの激励とご厚情をいただきました。愛知陸協からも沿道・スタンドから熱烈的な応援をいただき、選手・スタッフ共々感激いたしております。大会関係各位、ご配慮頂いた所属チームの皆様方には、深く感謝するとともにこの場をお借りしてお礼申し上げます。来年度に向け、一層の結束と強化を推進して参ります。今後ともご理解・ご協力をお願い申し上げます。

(明星 光信)

記録・情報処理委員会

年間を通して、競技会が立て込む時期もありますが、終了後の迅速な記録報告ありがとうございます。地区での競技会も増えていますが、年度の異なるデータや別の競技会データが送付されてくる事例が増えていきます。記録のまとめ、陸連データベースの訂正にかなり時間がかかっているようですので、ご協力をお願いします。また、陸連のデータベースが、「氏名」をもとにデータの重複の管理をしているため、「澤→沢」のように自動変換しています。そのため、公表される氏名が正しい表記と異なる場合がありますが、ご了解をお願いします。

2021年11月3日から12月31日まで、日本陸連のデータベースで確認できた県新記録および、前号以降に判明したもの

一般男子

10000m 27.33.13

太田 智樹 (トヨタ自動車)

[八王子ロングディスタンス 東京 2021.11.27]

一般・高校女子

4×100mR 45.29 県記録・高校記録

前田 紗希 (2)・倉橋 美穂 (3)・須崎 心優 (3)

藏重 みう (2)

[中京大中京高 エコパトラックゲームズ 静岡 2021.11.03]

U20 男子

300mH 36.30 U20 日本記録

高橋 遼将 (中京大中京高)

[国体選考 (少年の部) 愛知 2021.07.03]

中学女子

1000m (*これまでの記録は手動 2.58.3)

林 彩夢 (3) (西尾鶴城) 2.50.38

[県ジュニア 愛知 2021.09.04]

内田 詩乃 (3) (矢作北) 2.54.57

都築優衣華 (3) (吉良) 2.55.26

[西三河中学校記録会 愛知 2021.06.12]

杉浦 華夏 (2) (西端) 2.56.56

江藤 柚葉 (3) (刈谷東) 2.58.15

[県ジュニア 愛知 2021.09.04]

三段跳

岩田 祐香 (3) (西尾平坂) 10.81(-0.2)

[西三河中学夏季 愛知 2021.08.01]

仙石 華子 (3) (安城ジュニアAC) 10.69(+1.6)

[県ジュニア 愛知 2021.09.04]

永井 優芽 (2) (安城東山) 10.30(+0.2)

[中学校選抜混成 愛知 2021.06.27]

小林 環 (3) (春日井南城) 10.11(+1.7)

[中学校選抜混成 愛知 2021.06.27]

三浦 蜜華 (3) (武豊) 10.10(+1.8)

[県ジュニア 愛知 2021.09.04]

中村 朱琳 (3) (西尾平坂) 10.08(+1.7)

[県ジュニア 愛知 2021.09.04]

水軒 怜那 (3) (守山西) 10.04(+0.9)

[県ジュニア 愛知 2021.09.04]

平野 星 (2) (当知) 9.92(+0.2)

[名古屋地区ジュニア 愛知 2021.08.01]

陶山愛莉紗 (3) (豊川東部) 9.86(+2.0)

[県ジュニア 愛知 2021.09.04]

小学女子

4年走高跳 1.20 タイ記録

榊原 りほ (4) (TFC 半田)

[愛知県小学生選手権 愛知 2021.10.25]

1000m 3.09.29

前川 紡 (6) (田原陸上クラブ)

[豊川ナイター 愛知 2021.08.21]

(石鎚 一則)

学校訪問④5 岡崎市立城北中学校 全日中駅伝男子の部県代表

今回は、11月の県中学駅伝男子の部で優勝を果たし全日中駅伝に出場した岡崎市立城北中学校です。全日中の大会でも22位と健闘しました。最低気温が氷点下まで下がった1月半ばの土曜日に訪問し、取材をしました。その中から、全国大会にまで進出できた要因をいくつか報告します。

グラウンドに行く前にトイレをお借りしようと体育館に入ったのですが、入り口の靴箱の上の壁面に掲げられていた大きなパネル写真が目を引きました。10枚ほど掲示されていたのでしょうか。その中に5枚、陸上部員のものがありました。1枚ずつ紹介すると、H21 浅井真子選手：全日中走幅跳2位 H25 浅井さくら選手：全日中走高跳5位 H28 高須鮎香選手：全日中100m4位 H29 片山宗哉選手：全日中800m2位 R3 宮下颯汰選手：全日中800m 愛知県代表というものです。輝かしい伝統をパネル写真で日常的に目にするわけですから、生徒たちの意識の中に自ずと自分たちも高みに登ることができるのではないかという思いが生まれてくるのではと私は思いました。他の部のものも5〜6枚掲示されていました。後で陸上部顧問の伊藤禎浩先生、加藤光一郎先生にお聞きしてみると、今年度も陸上部の他にソフトボール部が全国大会ベスト16、オーケストラ部が全国大会出場、男子テニス部が新人戦で東海大会出場と活躍しているのだそうです。学校全体の雰囲気は陸上部の活躍を後押ししているのかも感じました。また、城北中は創立60周年を迎えており、節目の年としての意識が高く、初の全国出場をとの強い意志があったのだそうです。他にも伊藤先生のお話では、城北中学校は二つの小学校から進学してくるのですが二つの小学校にはそれぞれソフトボールのクラブがあるとのことでした。学校全体の雰囲気ばかりでなく、地域ぐるみの環境が陸上部の成績を押し上げているのかもしれない。

少し予想外だったことを記しておきましょう。新型コロナウイルスオミクロン株による急激な感染拡大の影響で、この日の練習は1年生と2年生を分けて2部制になっていました。密になってはいけないのです。8時〜9時30分が1年生、10時〜11時30分が2年生という形でした。私は少人数の活気のない形になるのかと思っていましたが、違っていました。1年生の部では男子が12名、女子も10名を数えていました。2年生の部では女子が4名と少なかったものの男子は13名でした。伊藤先生のお話では、クラブチームの練習に参加していて今日の練習に参加していない生徒がまだ何人かいるとのことでした。1、2年生だけで総勢が45名ほどになるということでしょうか。ある程度の人数がいないと部活に活気が生まれてきませんが、活気が出るだけの人数が集まっているなと思いました。これだけの部員がいるとなると城北中は大規模校なのかと思って加藤先生にお尋ねしてみると、意外にも1年生5クラス、2年生4クラスとのことでした。中規模校と言ってよいでしょうか。その割に陸上部員の数が多く、人気の部活動なのだと思います。

もう一つ思い浮かべていたことと違った点を挙げておきます。最寄りの駅で電車を降りたもののその先が分からなくて近くの配送センターの方に道をお尋ねしたら、すぐの信号を左に曲がって大通り（国道248号線）に沿って二つ信号を越えたら右手にありますよと教えてくださいました。国道に面して学校があるのか、平坦な場所で何の地の利も無い所かと私は思っていたのですが、それも違っていました。確かに国道に面して正門があり、グラウンドは200mのトラックの外側にそれほど余地の無い広くはないものでした。何が全国駅伝出場の秘訣なんだろうと最初は思ったのですが、城北中にも地の利があったのです。1年生の練習の途中で短距離グループと中長距離グループが分かれた時に見せていただいたのですが、裏門から50mも離れていない所を伊賀川が流れており、その両岸が市民のランニングコースとなっています。城北中ではそのランニングコースに岡崎城の公園を回って戻ってくる3キロのコースを設定しています。今日の練習にもその3キロのペースランニングが盛り込まれていました。伊藤先生のお話では、ランニングコースから上の道路に上がる坂道が所々にあって坂ダッシュもしていますとのことでした。時には少し離れた矢作川の河川敷に出かけたこともあるのだそうです。そこにはもっと長い坂があって鍛錬になりますよとおっしゃっていました。



伊賀川のランニングコース



伊藤先生のドリル指導

この日は2部制で、それぞれの学年の練習が90分と短いものでした。しかも、最低気温が氷点下まで下がった寒い日でした。短距離グループの練習はドリル→流し→サーキットトレーニングとなっていて、合間にそれほど休息を挟まなくてもよい形になっていました。状況に応じて内容をお考えになったのでしょうか。この中で印象に残ったのは、伊藤先生が常に生徒たちに寄り添い「ランニングポイントを意識して。パワーポイントを意識して。」などの声をかけていらしたことです。ドリルのところでは、動きの手本を示してもらっていました。中長距離担当の加藤先生も3キロのペースランニングを一緒に走り、サーキットにも加わっていらっしゃいました。何しろ和気あいあい、顧問の先生方と生徒たちの距離が近いのです。これ

こそがパフォーマンスの原動力だと私は思いました。

最後に一つ付け加えておかなければならないことがあります。それは90分しかない練習の最後にダウンジョグ、整理体操、ストレッチ、マッサージと15分を超える時間が取られていたことです。加藤先生は、絶対に故障させないことを意識していますと話してくださいました。また、マッサージの場面では生徒どうしの仲の良さも見とれました。

和気あいあいとした雰囲気と細心の注意で、城北中は新シーズンも高いパフォーマンスを示すことでしょう。 (取材・文責・写真 大西 敏功)



練習後の丁寧なケア

年誌資料・広報委員会

「愛知陸協広報」56～58号編集計画(案)

号数	発行月日	編集内容
「愛知陸協広報」56号	7月31日	<ul style="list-style-type: none"> 会長のことば 専門委員会報告及び今年度の活動方針 4地区の活動状況及び今年度の活動方針 関係団体の活動状況 競技会報告(国体選考、国体春季選抜、東海学生、県マスターズ、県高校総体、日本選手権、県高校定通、東海高校総体、県・東海混成、小学生リレー等) 理事会等会議報告 慶弔報告(協会会長表彰他) 連載「ホープさん」⑤⑩、「クラブ紹介」⑤⑩「学校訪問」④⑩ 「陸上競技場めぐり」⑩
「愛知陸協広報」57号	11月30日	<ul style="list-style-type: none"> 副会長のことば 専門委員会報告 4地区の活動状況 関係団体の活動状況 競技会報告(愛知選手権、県中学通信・県中総体、東海中総体、世界選手権、全日中、県ジュニア、県高校新人、U20・U18、国体、県小学生等) 理事会等会議報告 競技会参戦及び観戦記(全国高校総体、国体他) 慶弔報告(秩父宮章他) 連載「ホープさん」⑥⑪、「クラブ紹介」⑥⑪「学校訪問」④⑪
「愛知陸協広報」58号	3月31日	<ul style="list-style-type: none"> 専務理事のことば 専門委員会報告 4地区の活動状況及び今年度の反省 関係団体の活動状況及び今年度の反省 競技会報告(県・東海高校駅伝、県中学駅伝、市町村駅伝、東海学生駅伝、愛知陸協駅伝、全国高校駅伝、都道府県駅伝、元旦競歩、読売犬山ハーフマラソン、マラソンフェスティバル等) 理事会等会議報告 競技会参戦及び観戦記(都道府県駅伝等) 慶弔報告(県スポ協他) 連載「ホープさん」⑦⑫、「クラブ紹介」⑦⑫「学校訪問」④⑫ 「陸上競技場めぐり」⑪

(新見 精三)

催しています。しかし、その各陸協情報は断片的なものしか伝わってこず、当協会も情報交換の場を望んでいました。競技場の仕様も異なりますから選手の動線一つとっても一律ではありません。しかし、共通点や問題点など率直に情報と意見を交換し、今後の各地区陸上協会の競技運営や事業開催の改善になればと考えました。今回、名古屋地区陸協の呼びかけで、12月17日の夕刻、陸協事務所で、県陸協の稲垣 裕専務理事にもご出席いただき「各地区陸協会長・理事長懇談会」を開催しました。

今回の内容の多くは競技会運営に関することで、コロナ感染予防対策で審判員の不足と補助役員の削減、または補助員なしでの運営。無観客での開催とライブ配信の有無とその資材環境。競技者の場内滞在時間短縮から大会参加制限などの試行策。大会の1種目参加費。大会運営のペーパーレス化とプログラムの情報化。オフシーズンの選手強化普及事業の実施状況。年間多数参加の審判員への報償。更には、審判員の昼食代まで、多岐にわたり情報交換をしました。稲垣専務理事からも県陸協としての情報とアドバイスが頂け、開始から2時間程の有意義な時となりました。

今後は、理事会や競技会でお互いに顔合わせはあるものの、落ち着いて情報交換ができる機会を、不定期ですが担当地区輪番で開催することとし、今回は解散しました。今回は、西三河陸上競技協会が担当となりました。テーマを絞り開催されることを希望します。

(水野 久)

尾張陸上競技協会

今年度の尾張陸上教室は12月12日(日)、県営一宮総合運動場(いちい信金スポーツセンター)にて開催しました。予定していた1月8日(土)、2月6日(日)が中止になり、1回のみで開催でした。3回の継続を計画していただけに、残念でした。感染対策もあり、例年の全日単位から午前、午後に分けての教室は効率的に実施されました。

今年度最後の競技会である第69回尾張駅伝競走大会は、1月16日(日)に県営一宮総合運動場および周辺コースで2年ぶりに実施しました。今年度は天候に恵まれた中での大会でした。高校男子の部では、愛知黎明の28連覇を阻んだ津島東が念願の初優勝を果たしました。結果については下記のとおりです。

一般男子の部(21km)

- ぬまちゃんず A
- 東海学園大学
- ぬまちゃんず B

高校男子の部(21km)

- 津島東
- 愛知黎明 A
- 一宮 A

高校女子の部(18.9km)

- 愛知黎明
- 尾北
- 一宮 A

中学男子の部(14.7km)

- AC一宮 Junior A
- 宮田 A
- 大口 A

中学女子の部(14.7km)

- AC一宮 Junior
- 犬山南部
- 大口 A

各地区報告

名古屋地区陸上競技協会

パロマ瑞穂陸上競技場の全面改修で、地区の主競技場が北陸上競技場1カ所となり、その上、昨今のコロナ禍で競技者への様々な規制と、審判員には競技運営とは別に感染予防策に気遣いながらの1年でした。特に天候の悪い日には待機場所なども不足し、アップにも苦慮しています。本陸完成までの間この状況が続きますが、一日も早くコロナ感染症の終息と若い競技者が自由で最高のパフォーマンスができる日が早く来ることを切望するところです。

このような状況は、県下各地区陸上競技協会でも同様で、様々な工夫と改善や取り組みがされ競技会や事業を開

今回も尾張陸協の競技会運営上の工夫を紹介します。今回は、商標に関する意識の喚起についてです。

陸上競技の大会に参加するにあたっては、商標に関する規定を守らなくてはなりません。守られていない時にはテーピングテープで隠したり、商標が規定内に収まっているウェアに着替えるよう指示を与えられてしまいます。何年か前の東海総体で尾張地区の選手のTシャツに商標違反の文字サイズの社名があり、着替えを命ぜられたことがありました。以前から、県大会以上の大会で出発係をしている尾張地区の審判員の声として「商標違反のウェアを身に着けてくるのは尾張地区の選手ばかりだ」との声もありました。その声がまさに現実となった出来事でした。その審判員によると、名古屋地区や三河地区の選手には、商標違反のウェアは見受けられないのだそうです。これではいけないと策を講じたのが下の写真です。今はコロナ対応の招集になっておりますので実施していませんが、コロナ禍が収まればまた実施していきます。

やり方は簡単です。招集場所後方の競技者係控室の壁に、商標規定の項目を印刷してラミネート加工したものを掲示しておくというものです。招集に集中しておりますので選手の目が掲示物にまで及ばないのが現状ではありますが、競技会前の主任者会議でアナウンスするなどしながら粘り強く注意を喚起し、選手の意識に商標規定を浸透させていけたらと考えております。



(青山 充資)

西三河陸上競技協会

今年度も、昨年来世界を震撼させている新型コロナウイルス感染症の対策を最優先にした大会運営となりました。昨年度と違い、選手や競技役員の皆様の感染予防に対する意識も高く、協力の呼びかけに快く応じていただけました。その結果、昨年のような混乱もなく、無事に大会を開催することができました。

しかしながら、8月に入ってからは、変異株であるデルタ株の感染拡大が脅威となりました。その感染力の強さは私たちの予想をはるかに上回るものでした。夏休み最後の土日に予定していた、長期休業中の部活動の成果を確認する場としての大会である「西三河中学新人記録会」も、感染拡大が収まらず、急遽大会2日前に中止いたしました。参加団体と競技役員への中止連絡を、主たる役員の方々に担当していただき、事なきをえました。連絡に携わっていただいた方だけでなく、快くご了承くださった参加予定の選手、並びに競技役員の皆様のご理解とご協力に感謝しております。

今年度の大会におきましては、選手の滞在時間の制限や

無観客での大会開催等、コロナ禍で制約の多い競技運営の1年となりました。今年度も補助員をお願いすることはできませんでした。選手引率が主たる役割である各団体の関係者の皆様にも、大会運営にご協力いただくことで、何とか競技会を開催してまいりました。多くの皆様のご協力のおかげで、無事に1年を終えることができましたことに感謝しております。ありがとうございました。

一方で、コロナ禍であったからこそ得られた収穫もありました。記録速報は、昨年と同様に紙面でなく、速報サイトを利用し発表しました。その結果、ペーパーレス化への関心が複数の部署で高まりました。また、今年度後半からは、映像配信も試みました。数試合での試験的な配信でしたが、実施するめどがつかしました。今後は、配信に関する注意事項を作成し、選手や競技役員の協力と承諾をどう得るのかという問題に取り組まなければなりません。競技役員の映像配信に関する知識と技術の習得も急務となっています。選手の送迎をお願いしているご家族の皆様や競技関係者が、実施中の競技を観戦することができない状況にあります。せめて映像を通して観戦していただくことができるようにしたいという切なる思いで、映像配信に取り組んでおります。

今年度から始まったパロマ瑞穂スタジアムの建て替え工事に伴い、県高校総体と県高校新人大会が、岡崎の龍北スタジアムで実施されました。選手控室に駐車場を利用するなど、高体連の先生方の工夫と努力により、両大会とも予定どおり実施することができ、多くの大会新記録が誕生する大会となりました。また、春季東海学生大会、愛知陸協の強化練習会等も、龍北スタジアムにおいて実施いたしました。当地区の中高生にとって、良い刺激になったと確信いたしております。

冬季シーズンには、昨年に引き続き全三河駅伝競走大会の中学生の部を、当地区で担当いたしました。全区間1500mトラックレースとして実施し、昨年と同様に男女とも、各チームの出場者上位5名の合計タイムで順位決定いたしました。優勝チームは、男子が岡崎市立矢作中学校、女子は昨年に引き続き岡崎市立矢作北中学校でした。

今年度も前年と同様に、多くの選手が全国で活躍いたしました。12月に実施された全国中学駅伝に、愛知県代表として、男女とも岡崎市内の中学校が出場しました。そして、女子の部に出場した、矢作北中学校が7位入賞を果たしました。また、全国高校駅伝の女子の部には、昨年に引き続き安城学園高等学校が出場し、前年以上の活躍をいたしました。なお、今年度の小・中・高生の、全国大会入賞者は下記のとおりです。

全国高等学校対抗陸上競技選手権大会

	(種目)	順位	氏名	所属名	記録
男子	走高跳	6位	鈴木 琉太	岡崎城西	2m03
女子	200m	7位	小松このみ	安城学園	24"21
	800m	2位	小山 愛結	安城学園	2'09"09
	4×100mR	8位	安城学園		46"79
(濱島月香・小松このみ・中根 葵・手嶋美咲)					

全国中学校陸上競技選手権大会

男子	棒高跳	3位	谷口 海斗	猿投	4m40
----	-----	----	-------	----	------

女子	1500m	2位	林 彩夢	鶴城	4'27"57
	100mH	6位	大和 令奈	矢作北	14"35
	四種競技	7位	高塚 虹百	岡崎南	2,668点

全国小学生陸上競技交流大会

男子 コンバインドA 4位 加藤 遼大 へきなん陸上 2,302点

U18 陸上競技大会

男子	ハンマー投	2位	神戸 良介	三好高	57m22
女子	走高跳	5位	鈴木 菜美	岡崎北高	1m65

U16 陸上競技大会

男子	棒高跳	3位	谷口 海斗	猿投中	4m20
女子	1000m	1位	森 千莉	豊田大谷高	2'47"86

第29回全国中学校駅伝大会

女子の部 7位 矢作北中 44'45"

(秋竹凜音・内田詩乃・佐々木莉愛・犬塚美桜・秋竹奏音)

最後になりましたが、豊田市陸上競技場の改修工事が終了し、2月11日に検定が行なわれました。新しく3種陸上競技場として生まれ変わりました。オープニングゲームとしては、4月2・3日(土・日)に「第1回西三河陸上競技記録会」を予定しています。

(櫻井 一美)

東三河陸上競技協会

2021年度も新型コロナウイルスのため無観客ではありましたが、ほぼすべての陸上競技大会を無事に開催することができました。ただしロードレースは今年度も多くの大会を中止とせざるを得ませんでした。そんな中、2年ぶりに私の独断で東三河陸上競技協会の10大ニュースを作ってみました。

☆第1位 鈴木亜由子選手と服部勇馬選手が東京オリンピックのマラソンに出場

鈴木選手は8月7日に、服部選手は8日に札幌で行なわれたマラソンに出場しました。この1年コロナに翻弄され体調をベストに持っていくことができず、不本意な結果だったと思いますが、二人とも猛暑の中を完走してくれたことを心からほめたいと思います。

☆第2位 箱根駅伝で東三河出身選手が快走

レースの流れを決める1区で、田原東部中出身の吉居大和選手が区間新記録の快走で中央大の10年ぶりのシード権獲得に貢献すると、エース区間の2区では、豊川工高出身の近藤幸太郎選手が粘りの走りでも順位を3つ上げ青山学院大の総合優勝に貢献しました。

☆第3位 全国中学総体で東三河中学生の活躍

8月18日～20日に茨城で行なわれた全日本中学校陸上競技選手権大会に、10校からリレー1チームと個人10名が出場を果たしました。そして、佐藤俐有選手(田原東部)が女子100mで3位に入賞し、田原東部が女子4×

100mRでも3位に入賞しました。

☆第4位 全国小学生交流大会で東三河小学生の活躍

9月19日に神奈川で行なわれた全国小学生交流大会に、2クラブから4名が出場を果たしました。そして、加藤桜選手(豊橋陸上)が女子5年100m2位に入賞しました。

☆第5位 高校総体で東三河の高校生活躍

7月28日～8月1日に福井で行なわれた全国高等学校総合体育大会に、4校からリレー2チームと個人8名が出場を果たしました。そして、小川大輝選手(豊橋南)が男子400mHで6位に入賞しました。

☆第6位 ランフェス in 豊橋で次世代ランナーたちが箱根ランナーたちと心地よい汗を流す

☆第7位 中部実業団駅伝でトヨタ自動車が8連覇を逃す

☆第8位 東三河陸上競技協会鈴木政男会長が秩父宮章受章

☆第9位 コロナ下で穂の国豊橋ハーフマラソン公認の部2年連続中止

☆第10位 コロナ下で渥美半島駅伝2年連続中止

来年度もウィズコロナでの大会運営を余儀なくされると思いますが、選手の皆さんが気持ちよく参加できるように関係者一同で盛り上げていきましょう。

(兵藤 重二)

関係団体報告

小学生友の会

2021年度は、新型コロナウイルスの感染状況を確認しながらの活動になりました。その中で各地区大会を含め、6月には“日清食品カップ”第37回全国小学生陸上競技交流大会愛知県予選会、9月に全国大会が無事開催されましたことは、子どもたちにとってかけがえのない経験になりました。大会運営に関わっていただきました方々に感謝いたします。また11月には、愛知県小学生陸上競技選手権大会が行なわれ、各学年別、全33種目で熱戦が繰り広げられました。愛知県小学生新記録が4つ、大会タイ記録が1つ更新され、子どもたちの笑顔をたくさん見ることができました。



交流会：JAPAN選手と一緒に

現在、小学校での部活動が縮小される中、地域でのクラブチームの役割は大きくなっていくと思われます。多くの子どもたちがいろいろなスポーツに触れて、楽しさを体感してほしい。その1つに陸上競技があり、その手助けをできるように友の会が活動していければと考えます。

次年度は、多くの歓声の中、子どもたちが競技場で躍動する姿が見られることを願います。



「がんばれ愛知」の選手団

(八代香津子)

中小体連

来シーズンへ向けて

県中学駅伝 (11/13: 愛知こどもの国)

本年度最後の主催事業となる県中学駅伝は、女子は岡崎市立矢作北中学校、男子は岡崎市立城北中学校がそれぞれ優勝を飾りました。全国中学校駅伝大会は滋賀県の希望ヶ丘文化公園で行なわれ、城北中学校が第22位、矢作北中学校が第7位入賞となりました。

また、愛知県中学駅伝大会の開催にあたっては、西三河

支部中体連の関係各位に絶大なるご支援とご協力をいただきました。ありがとうございました。

来年度については、豊田市総合運動公園での開催で準備を進めています。

次年度の大会予定

2022年度の福島全中での大きな変更点は今のところありません。昨年度の茨城大会から1名2種目の出場から1名1種目の出場へと変更となりましたが、来年度以降も継続して実施していくことになります。

2022年度のU-16陸上競技大会については、昨年度同様、愛媛県で開催されます。この大会については、2023年度まで愛媛県での開催が決定しています。

東海中学総体は、岐阜県で開催されますので、各方面でのご支援ご協力をいただきながら、選手が大きな成果を上げられるよう実施していきたいと考えております。

次年度へ向けて

中体連としては、一人でも多くの選手が全国大会へ出場できるようにサポートしていきたいと考えています。各学校、部活動が実施出来ない状況や多くの感染対策が必要な状態ではありますが、それぞれの工夫を生かして、学校の指導を中心として、さらに各地区の練習会や全県での協体制度が不可欠であると考えられます。

今年度は、陸協ジュニア部で実施いただいているジュニア強化練習会、さらに各地区の陸上教室、練習会など、感染対策を徹底した中でできる限り開催してきました。しかし、すべてが順調に開催されたわけではなく、中止や延期をくり返しながらの開催となっています。そのため、練習

ホープさん ④9

森 ^{せんり} 千莉 選手 (豊田大谷高等学校 1年)

私と千莉さんとの出会いは、小学校の持久走大会でした。3年生ながら綺麗なフォームで、スタートから2位を大きく引き離して走る千莉さんを見ていた私は、「この子の潜在能力は、すごい。将来が楽しみだ。」と感じました。4年生から、



インターハイ予選 800m

千莉さんを指導することになりました。しかし、彼女は決められた練習が嫌いだったために、最初のミニハードルだけを行なわせていました。その後、彼女は、友達と延々1時間ぐらい「鬼ごっこ」をして遊んでいました。私の本音は、「もう少しランニングの練習をしてほしい」でしたが、彼女の遊ぶ姿を見ながら、「鬼ごっこがメイン練習でいい」と自分に言い聞かせ、小学校を卒業するまで、彼女の練習は鬼ごっことなりました。当然、保護者からは、「先生、もっと練習させてください。」と要望されましたが、「この子は、二十歳になったら日の丸をつけます。今は、これでいいのです。」と言い切りました。このように、「本人のやりたいことをさせる」という方針は、中学でも、そして現在でも変わっていません。U16・1000mで優勝したものの、長い距離への移行がまだ進んでいないなかでの駅伝では、本人の思うような走りができなかったようです。これを機に、本人が長い距離を走るために必要なことを考えて、これから取り組んでいけば、長距離種目で世界と闘っていくことができるに違いないと考えています。本人には常々「800mで2分を切ろう。1500mで3分台で走ろう。そのスピードをもって長距離を走ろう。」と言っています。本人は、世界の舞台をしっかりと見つけています。それを長い目で、計画的にサポートしていきたいと思います。

(片桐常夫)

の情報共有やモチベーション向上が難しい状況ではありません。このような状況であるからこそ、学校間や指導者同士の情報の共有方法を考えながら選手強化を行なっていきたいと考えています。

(佐橋 弘晃)

高体連

令和4年度に向けて

昨年度に引き続き、コロナウイルスがなかなか収束しない中、令和4年度のシーズンが始まろうとしています。無観客対応や競技場内での行動制限を、来年度も実施するかもしれない考えると、不安要素がいっぱいです。また、来年度は東海高校駅伝を開催する年にあたります。しっかりと準備をして競技会開催を迎えたいと思います。

愛知県高体連は、来年度も選手第一でしっかりと運営をしていきたいと思っています。県大会は、来年度も総体、新人戦共にマルヤス岡崎龍北スタジアムで開催します。西三河陸上競技協会様には多大なるご協力をいただくこととなります。ご協力をよろしくお願いいたします。また、先に述べましたが、東海高校駅伝を開催しなければなりません。尾張陸上競技協会様を始め、高体連尾張支部の皆様には大変ご迷惑をおかけすることとなりますが、皆様方のご協力をよろしくお願いいたします。また、愛知陸上競技協会登録の審判員の皆様のご協力も必要になってまいります。ぜひ、運営にご協力いただきますようお願いいたします。

令和4年度は、東海総体は本来愛知県開催の順番ですが、パロマ瑞穂スタジアムが全面改築のため、令和2年度に岐阜県と交代し開催（コロナ禍のため中止）しましたので、令和4年度は岐阜県開催です。また、全国総体は徳島県にて開催されます。令和3年度秋に開催された、東海新人大会や愛媛県で開催されたU18陸上競技大会では、数多くの愛知県代表選手が活躍してくれました。その選手の皆さんをはじめ、多くの有望選手が愛知県にはいます。コロナ禍で2月初旬から部の活動が制限されていますが、冬季練習は順調に行なわれたことと思います。福井総体では4種目で愛知県選手が優勝しました。多くの選手が大いに活躍をしていただけたことと期待をしています。

コロナ禍もあり、陸上競技に参加する生徒数が毎年減少しています。愛知県の高中生登録者数も2016年から約1200名減少しています。クラブチームや中学校で陸上競技を始めた選手の皆さんが、高校でも継続してもらえるように、クラブチーム関係者の方々や中体連とも連携をなくしてはならないと痛感しています。また、高校から始めてもらえる選手の発掘も急務だと思います。このまま減少するのではなく、何とか増やしていけるように努力をしていますので、皆様方のご協力を心からお願いいたします。

本年度をもって、高体連の活動を支えていただいた、金子高体連陸上競技部長が定年により退任いたします。また、知多支部の小野田副委員長、東三河支部の横地副委員長、西三河支部の甲斐副委員長も退任します。長年にわたり高体連を支えていただいた皆様方に心から感謝申し上げます。来年度からは新しい部長と副委員長を迎え、より一層堅固な高体連の組織にしていきたいと思っています。

1年延期となった2020東京オリンピック・パラリンピックが開催されました。少しばかり大会に関係させていただ

き、オリンピックのすばらしさを身近に体験させていただきました。そのレガシーを2026年のアジア大会に、また昭和58年(1983年)から45年ぶり開催の2028年全国高校総体につなげていきたいと思っています。今後とも高体連の活動にご協力をよろしくお願いいたします。

(石井 哲郎)

高体連定通部

令和4年度に向けて

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、県定通総体と全国定通陸上大会、秋季大会の3大会を開催することができました。県総体と全国大会は2年ぶりの開催となり、多くの生徒が活躍をすることができました。県総体、秋季大会は感染症予防をしつつ大会を行なうことができ、大会運営にご協力いただいた役員の方々に厚く感謝申し上げます。

1月からは、新型コロナウイルス感染症のオミクロン株が猛威を振るい、学内での部活動が思うようにできない日が続いておりますが、令和4年度のシーズン開幕が近づいてきました。定通の選手にとっては、6月の県定通総体が開幕戦となり、全国大会出場を懸けた大切な大会となります。例年、定通の選手は大会が間近に迫らないと練習に熱が入らない選手が多いですが、春が近づき、暖くなるこの時期から全国大会を見据えてしっかりと準備をし、切磋琢磨してもらいたいです。また、今年度は、全国大会で、男女総合準優勝となり、全国制覇を逃す結果となってしまいました。令和4年度は、男女総合優勝を目指し、強い愛知を全国で見せられるよう、チーム愛知として、定通スタッフ全員で生徒を支えていきたいです。

(野村 有輝)

学連

2021シーズンを振り返る

感染症下におけるスポーツイベントは、未だ無観客や開催規模を縮小するなどの制約はあったが、2021年は大方予定していた競技会数を開催することができた。シーズン当初はチーム内での陽性者数が多数報告され大学スポーツ自体の活動が休止・自粛となり、学連関係者の間でも競技会開催が不安視されていたが、2020年は中止となった春季競技会や東海インカレは無事に開催することができた。緊急事態宣言が終了して、その後第5波の到来が著しくなってきた頃には、西日本インカレ(西日本IC)の開催時期と重なり、前回同様に開催可否の決断が迫られた。ちょうど1週間後には日本選手権が開催されるため、西日本ICの開催も可能では?という声もあったが、陽性者数が多い地域の大学生が西日本ICの開催地となる岐阜県に集まることによる感染拡大や市民感情に配慮して中止という決断に至った。その後、愛知県内の競技場で予定されていた全日本大学駅伝選考会(刈谷)や夏季大会(岡崎)などは、感染症対策をしながら事業計画どおりに開催することができた。世界の陸上競技は、1年延期となった2020オリンピック・パラリンピック開催のシーズンであったが、大学生の世界大会World University Gamesは2022年に開催延期となり、既に代表者が決定していた種目では代表内定を取り消し、再選考という措置がとられた。このように選手や

関係者には、厳しい状況が強いられているが、限られた環境下におかれても様々な挑戦に取り組む中で、新記録や輝かしい結果を残した学生アスリートを紹介する(表1)。

■大島 健吾選手(名古屋学院大学4、県立瀬戸西) / パラリンピック競技大会

高校時代はラグビー選手だったが、大学進学後は陸上競技に転向。同大学陸上競技部で部長を務める十種競技の元日本記録保持者、松田克彦氏のコーチングにより自己記録を更新し、2020東京パラリンピック(クラスT64)に出場。100mでは予選敗退したものの、200mでは8位入賞、第2走者として出場したユニバーサルリレーでは銅メダルを獲得した。

■伊藤 陸選手(近代高専S1) / 男子跳躍

毎年記録更新と数々のタイトルを獲得し続けている伊藤選手は、走幅跳では自身の東海学生記録を更新(8m05)、三段跳では日本人3人目となる17mジャンパーとなり日本学生記録を更新(17m00)した。なお、日本インカレにて走幅跳と三段跳の組み合わせで優勝したのは、41年ぶりでもあった。

■名城大学 / 女子長距離

学生駅伝では圧倒的な選手層で、全日本大学女子駅伝5年連続6回目の優勝、富士山選抜女子駅伝4連覇、東海学生女子駅伝15連覇を成し遂げた。また、駅伝だけではなく、トラックシーズンでも各選手の活躍が目立った。U20日本選手権では谷本七星選手が3000mSCを大会新記録で優勝。小林成美選手は10000mで学生記録を更新、先日行われた日本選手権クロスカントリー(2/26、福岡)では優勝している。

未だ何らかの制約が生じる社会生活ではあるが、我々は我慢するだけではなく、新しい生活様式に順応することが求められている。コーチや選手たちの創意工夫のもと取り組まれている新しいトレーニングこそが、ニューノーマルなスポーツ活動であろう。今回は、その成果の一端ではあるが、主な新記録や競技成績を紹介した。

末筆ではありますが、感染症予防策をとった競技会だったとはいえ、自らの健康状態にも神経を遣いながら各種競技会の運営にご協力頂きました愛知陸協審判員の方々には、本誌をもって感謝申し上げます。2022年シーズンも

ご指導、ご協力頂けますようよろしくお願い致します。

(黒須 雅弘)

実業団

2021年度総括と2022年度に向けて

2021年度の最大のイベントである東京オリンピックに愛知ゆかりの選手が6名出場しました。中でも山西利和選手(愛知製鋼)が20km競歩で銅メダルを獲得し日本中を熱狂させてくれました。

他の競技会では、全日本実業団駅伝(ニューイヤー駅伝)では、2年連続準優勝のトヨタ自動車が優勝を目指しましたが5位と、優勝争いができませんでした。女子の全日本実業団駅伝(クイーンズ駅伝)では、長年入賞してきて昨年3位の豊田自動織機は16位と、来年は予選会(プリンス駅伝)から頂点を目指します。

2月の別府大分マラソンでは、トヨタ自動車の西山雄介選手が2時間7分47秒(初マラソン歴代2位)と、夏の世界選手権の派遣標準記録を突破しての優勝をしました。2022年度は、東京オリンピックに続き世界選手権とビッグな大会が続きますが、1人でも多くの選手が愛知から出場できるよう頑張ってもらいたいと思います。皆さんの応援をよろしくお願いします。



表彰後の西山選手

(中村 博之)

マスターズ陸上

日頃は愛知マスターズ陸上へのご理解とご協力を賜りありがとうございます。

昨年はコロナ禍における大会運営におきまして、関係各

表1 2021年に誕生した新記録と競技成績

選手名(所属・学年)	種目	記録	タイトル/ランキング
【男子】 伊藤 陸(近代高専S1)	走幅跳	8m05	東海学生新記録 / 日本インカレ優勝
大島健吾(名古屋学院4)	三段跳	17m00	日本学生新記録・東海学生新記録 / 日本インカレ優勝
皇學館大学	T64 100m	11.41	2020東京パラリンピック競技会出場(予選敗退)
	T64 200m	23.62	2020東京パラリンピック競技8位入賞
	ユニバーサルリレー 駅伝		2020東京パラリンピック競技会銅メダル獲得 全日本大学駅伝5年連続5回目出場、出雲選抜駅伝4年連続出場、東海学生駅伝5連覇
【女子】 小林成美(名城大3)	10000m	31.22.34	日本学生記録更新・東海学生新記録 / 2022世界選手権参加標準記録突破、日本選手権クロカン優勝
谷本七星(名城大1)	3000mSC	10.13.49	U20日本選手権優勝(大会新)
猪岡真帆(中京大4)	100mH	13.40	東海学生新記録
名城大学	駅伝		全日本大学女子駅伝5年連続6回目の優勝、富士山選抜女子駅伝4年連続優勝、東海学生女子駅伝15連覇

位のご理解、ご協力により各競技会が開催できましたこと、心より感謝申し上げます。

さて、令和4年度シーズンの始まりに際し、愛知マスターズでは、これまでの感染防止対策を継続しながら各競技会を計画して参ります。31回目を迎える「愛知マスターズ選手権大会」を基本に、年間4回の開催を継続して今年度で87回を数え、全国からの参加者で盛り上がりを見せています「記録会」を計画しました。長距離部門では昨年不参加となった「全日本マスターズ駅伝」参加に向けて準備を進めています。合わせて生涯スポーツとしてのマスターズ陸上会員増加のためのイベント開催をはじめ、普及活動にも積極的に取り組んで参ります。

今後とも、愛知マスターズの活動に、ご理解ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

【令和4年度競技会予定】

- 4月24日(日)
第84回記録会 [ウェーブスタジアム刈谷]
- 5月14日(土)
第85回記録会 [ウェーブスタジアム刈谷]
- 6月19日(日)
第31回愛知マスターズ選手権大会 [ウェーブスタジアム刈谷]
- 7月3日(日)
第86回記録会 [ウェーブスタジアム刈谷]
- 8月21日(日)
第87回記録会 [ウェーブスタジアム刈谷]
- 9月23日(金)～26日(日)
第43回全日本マスターズ選手権大会[9.98スタジアム(福井市)]
- 12月18日(日)
第35回全日本マスターズ駅伝大会[国営昭和記念公園(立川市)]
(兵藤 隆昭)

競技会報告

第42回愛知県ジュニアオリンピック陸上競技大会
2021年9月4日(土) パロマ瑞穂北陸上競技場

男子 (3位入賞のみ)

種目	1位	2位	3位
100m	鎌戸 煌大 11.37 豊橋中部中	松尾 晃成 11.54 扇台中	杉山 紘大 11.64 名東高
1年100m	杉山 惇人 12.36 東山中	片桐 兜真 12.48 田原中	達村 竜斗 12.58 JSC
2年100m	巻口 周平 11.55 田原中	成田 俐士 11.90 大須AC	瀬尾 陸斗 11.94 豊川南部中
145m	足立光太郎 16.43 小坂井中	浅井 央真 16.46 萩山中	近藤 紘史 16.68 前林中
1000m	佐々木哲 2.37.30 TSM	鈴木 太智 2.40.33 東陽中	尾関 柁太 2.40.84 愛知陸協
3000m	鷺見龍之介 9.08.98 大須AC	神田 悦士 9.13.15 城北中	高松 桜太 9.19.90 安城西中
110mH (0.991m)	西垣剛玖 15.18 扇台中	坂井 大一 15.74 TSM	小幡 浩生 16.12 TSM
走高跳	鈴木羽玖斗 1.80 朝日丘中	杏名 修吾 1.75 豊橋東部中	樽澤 寛季 1.75 依佐美中
棒高跳	谷口 海斗 4.20 猿投中	水野 頌大 4.00 東浦北部中	河合 峻弥 3.10 六ツ美北中
走幅跳	与那城秀叶 6.46 豊川南部中	村松 泰雅 6.05 高師台中	宮本 恭伍 5.99 大口中

三段跳	中村 光希 12.88 萩山中	深谷 凌台 12.39 大府中	竹本光太郎 12.16 南稜中
砲丸投 (5.000kg)	今村 桂也 12.23 鎌倉台中	俵 鉄宗 11.23 末野原中	佐々木 優 10.85 鎌倉台中
円盤投 (1.500kg)	中村 俊郎 32.64 平坂中	小森 健太 31.07 大府中	生森 直希 30.73 牧の池中
ジャベリック スロー (0.300kg)	鹿間 大聖 59.63 北山中	宮田 来樹 52.03 知立南中	岩坂レオン 51.20 牧の池中

女子 (PJH：県中新記録) (3位入賞のみ)

種目	1位	2位	3位
100m	佐藤 俐有 12.24 田原東部中	三輪 琉姫 12.64 トライルAC	岡田 翠 12.65 田原中
1年100m	高崎 生愛 12.93 稲沢ACJ	大野 世奈 12.95 なごや陸上	杉山 凜 13.21 代田中
2年100m	佐竹 愛琉 12.86 豊川西部中	今井美莉亜 12.97 AC-宮Junior	坂本 茜 13.09 大府西中
145m	眞田 あこ 18.33 章南中	津川 愛依 18.44 豊橋東陵中	森 那帆 18.46 古知野中
1000m	森 千莉 2.49.56 豊田大谷高	林 彩夢 2.50.38 鶴城中	内田 詩乃 2.54.57 矢作北中
3000m	秋竹 凜音 10.11.30 矢作北中	秋竹 奏音 10.18.18 矢作北中	高木 杏珠 10.29.39 竜海中
100mYH (0.762m)	大和 令奈 14.46 矢作北中	高塚 虹百 15.15 岡崎南中	杉藤 葵 15.40 AC-宮Junior
走高跳	今浦 彩葉 1.58 日進西中	井坂 優里 1.55 TSM	松下七海芽 1.50 味美中 原田 碧 1.50 羽田中 渡邊 紗希 1.50 TSM
棒高跳	岡部 陽奈 3.20 PJH 逢妻中	草野 咲蕾 2.90 愛知陸協	上野 橙和 2.40 大府中
走幅跳	寺島 慶 5.44 TSM	新井沙也加 5.28 なごや陸上	松原 せり 5.10 扇台中
三段跳	岩田 祐香 10.75 平坂中	仙石 華子 10.69 安城JAC	小林 環 10.18 TSM
砲丸投 (2.721kg)	平岩 里彩 12.64 守山中	上出 聖華 12.45 高蔵寺中	川村 茉凜 11.80 守山東中
円盤投 (1.000kg)	岩田明樺梨 28.57 TSM	伏木 杏莉 28.48 東山中	伊藤 優亜 24.59 長良中
ジャベリック スロー (0.300kg)	成田 沙穂 45.87 桜田中	佐々木凜娃 43.92 猿投台中	大野 奈美 38.32 AC-宮Junior

令和3年度愛知県高等学校駅伝競走大会
男子第70回・女子第31回全国高等学校駅伝競走大会愛知県予選会
2021年11月6日(土) 一宮市大野極楽寺公園発着
(男子：7区間42.195km・女子：5区間21.0975km)

総合

順位	女子		男子	
	学校名	タイム	学校名	タイム
1	安城学園	1.09.38	豊川	2.04.56
2	豊川	1.10.43	名経大高蔵	2.05.50
3	豊田大谷	1.11.16	愛知	2.07.55
4	光ヶ丘女子	1.12.27	岡崎城西	2.09.02
5	愛知	1.12.47	中部大第一	2.09.07
6	岡崎城西	1.13.20	中京大 中京	2.09.29

女子区間賞

区間	氏名	学校名	記録
第1区(6km)	中馬 蘭奈	豊田大谷	19.06
第2区(4.0975km)	竹田 実紗	安城学園	13.46
第3区(3km)	小山 愛結	安城学園	9.38
第4区(3km)	渡辺 柚那	安城学園	9.59
第5区(5km)	杉浦 花音	安城学園	16.56

男子区間賞

区間	氏名	学校名	記録
第1区 (10km)	吉村 聡介	豊川	28.56 区間新
第2区 (3km)	大岩 蓮	愛知	8.36
第3区 (8.1075km)	近田 陽路	豊川	23.46
第4区 (8.0875km)	池沢 悠矢	名経大高蔵	24.09
第5区 (3km)	野川 元希	愛知	8.30
第6区 (5km)	野村 慈音	豊川	15.00
第7区 (5km)	永嶋 優樹	豊川	15.02

第61回中部実業団対抗駅伝

2021年11月7日(日)

渥美半島 はなとき通り発着 7区間 80.5km

成績 (本県分のみ)

- 1 トヨタ紡織愛知 3.54.16
(関谷賢人・山田滉介・小島大明・小野田勇次・大池達也・エバンスケイタニー・西山凌平)
- 2 トヨタ自動車愛知 3.54.55 6 中央発條愛知 3.57.15
3 愛三工業愛知 3.56.25 7 愛知製鋼愛知 3.59.13
5 トーエネック愛知 3.56.48

区間賞

区間	氏名	学校名	記録
第1区 (12.0km)	藤井 寛之	愛三工業	34.24
第2区 (8.3km)	エバンス ケイタニー	トヨタ紡織	23.05
第3区 (12.2km)	西山 雄介	トヨタ自動車	35.03
第4区 (15.5km)	太田 智樹	トヨタ自動車	43.38 区間新
第5区 (12.2km)	田中 秀幸	トヨタ自動車	35.57
第7区 (11.8km)	難波 天	トーエネック	33.48 区間新

第70回愛知県中学校駅伝大会

2021年11月13日(土)愛知こどもの国特設コース
(男子:6区間 18km・女子:5区間 12.6km)

女子成績

- 優勝 矢作北中 46.27
(秋竹凜音・佐々木莉愛・内田詩乃・犬塚美桜・秋竹奏音)

女子区間賞

区間	氏名	学校名	記録
第1区 (3km)	秋竹 凜音	矢作北	10.18
第2区 (2.2km)	佐々木莉愛	矢作北	8.21
第3区 (2.2km)	内田 詩乃	矢作北	7.55
第4区 (2.2km)	松山 由奈	六ツ美北	8.46
第5区 (3km)	秋竹 奏音	矢作北	11.05

男子成績

- 優勝 城北中 53.41
(近藤カリーム・片山健二郎・中瀆孝介・大山琉希・神田悦士・宮下颯汰)

男子区間賞

区間	氏名	学校名	記録
第1区 (3km)	森田 清	尾張旭西	9.06
第2区 (3km)	鈴木 獅立	竜海	8.26
第3区 (3km)	中瀆 孝介	城北	8.56
第4区 (3km)	岡田 陽光	矢作	9.01
第5区 (3km)	神田 悦士	城北	8.37
第6区 (3km)	蜂須賀 蒼	六ツ美	8.52

女子第32回・男子第70回東海高等学校駅伝競走大会

2021年11月28日(日)松阪市公認コース
(女子:5区間・21.0975km・男子:7区間・42.195km)

女子成績 (本県分のみ)

- 1 安城学園 1.10.31
(磯部早良・小山愛結・竹田実紗・渡辺柚那・杉浦花音)
- 2 豊田大谷 1.11.39

区間賞

区間	氏名	学校名	記録
3区 (3.0km)	野村 通子	豊川	9.41
4区 (3.0km)	石川 桜子	豊田大谷	9.32 区間新
5区 (5.0km)	前田 彩花	愛知	16.30

男子成績 (本県分のみ)

- 7 愛知 2.10.05
(平井翼・市丸健太・大岩蓮・大岩準・加藤大地・野川元希・仙石旭)

第41回全日本実業団対抗女子駅伝競走大会

2021年11月28日(日)

松島町文化観光交流館前~弘進ゴムアスリートパーク仙台(宮城コース)
(6区間・42.195km)

女子成績 (本県分のみ)

- 16 豊田自動車織機 2.18.26
(小笠原安香音・山本菜緒・川口桃佳・ヘレン エカラレ・沼田未知・前田梨乃)

第15回東海学生女子駅伝対校選手権大会

2021年12月12日(日)コース:知多半島半周 5区間26.6km

成績 (本県分のみ)

- 1 名城大学 A 1.28.12
(井上葉南・高松智美ムセンビ・和田有菜・松澤綾音・増淵祐香)
- 3 至学館大学 1.38.59 5 日本福祉大学 1.39.15
4 中京大学 1.39.10 7 東海学園大学 1.42.22

区間賞

区間	氏名	学校名	記録
1区 (3.7km)	井上 葉南	名城大学 A	11.26
2区 (4.2km)	高松 智美ムセンビ	名城大学 A	13.30
3区 (5.9km)	和田 有菜	名城大学 A	18.48
5区 (8.1km)	増淵 祐香	名城大学 A	27.22

第83回東海学生駅伝対校選手権大会

2021年12月12日(日)コース:知多半島1周 7区間63.5km

成績 (本県分のみ)

- 2 愛知工業大学 3.17.34
(原田佑弥・深谷涼太・吉田椋哉・堀田翔紀・渡邊大誠・土方悠・荻谷真之介)
- 4 名古屋大学 3.19.37 7 中部大学 3.29.21
5 中京大学 3.21.44 8 愛知教育大学 3.29.21
6 南山大学 3.29.16

区間賞

区間	氏名	学校名	記録
2区 (10.6km)	森川 陽之	名古屋大学	32.00
5区 (10.3km)	横田 佳介	中京大学	32.06
7区 (12.3km)	荻谷真之介	愛知工業大学	37.47

第29回全国中学校駅伝大会

2021年12月19日(日)
 希望が丘文化公園スポーツゾーン芝生ランド
 男子の部(6区間 18km) 女子の部(5区間 12km)

女子成績(本県分のみ)

7 岡崎市立矢作北中学校 44.45
 (秋竹凜音・内田詩乃・佐々木莉愛・犬塚美桜・秋竹奏音)

区間賞

区間	氏名	学校名	記録
2区(2km)	内田 詩乃	岡崎市立矢作北中学校	7.03

男子成績(本県分のみ)

22 岡崎市立城北中学校 1.00.48
 (神田悦士・片山健二郎・近藤カリーム・中濱孝介・大山琉希・宮下颯汰)

女子第33回・男子第72回全国高等学校駅伝競走大会

2021年12月26日(日)たけびしスタジアム京都付設駅伝コース
 (女子:5区間 21.0975km・男子:7区間 42.195km)

女子成績(本県分のみ)

11 安城学園 1.10.27
 (磯部早良・小山愛結・竹田実紗・渡辺柚那・杉浦花音)

男子成績(本県分のみ)

43 豊川 2.10.14
 (吉村聡介・大塚直哉・近田陽路・夏目拓・スタンリー頼安・永嶋優樹・藪田虎志朗)

第53回元旦競歩大会

2022年1月1日(土)
 物産フードサイエンス1969知多スタジアム付設長距離競歩路

成績(本県分のみ)

一般大学男子 20kmW
 1 櫻井 悠也(愛知陸協) 1.52.18

一般大学男子 10kmW
 3 稲吉 悠多(至学館クラブ) 51.23

高校男子 10kmW
 1 鳥居 拓実(旭野高校) 48.48
 2 大西 敬吾(知多翔洋高校) 49.21

一般大学女子 10KmW
 1 則武 桃佳(中部学院大学) 56.16

高校女子 5kmW
 1 足立 真唯(明和高校) 24.40

第66回全日本実業団対抗駅伝競走大会

2022年1月1日(土)ニューイヤー駅伝コース(7区間 100km)

成績(本県分のみ)

5 トヨタ自動車 4.54.08
 (田中秀幸・堀尾謙介・太田智樹・西山雄介・服部勇馬・西山和弥・大石港与)
 11 トヨタ紡織 4.55.19 22 愛三工業 4.59.26
 18 トーエネック 4.58.06 29 中央発條 5.01.20

名古屋ウィメンズマラソン2022

2022年3月13日(日)バンテリンドーム名古屋発着



表彰式の様子

コロナ対策を十分にとって、一般の競技者含め、総勢16,184名が春の名古屋の街を駆け抜けました。7月の世界選手権や、2024年パリ五輪代表選考会(MGC)の出場権を懸けて、熱戦が繰り広げられました。素晴らしい大会新記録とMGC8名が大きな成果でした。

関係者のご協力に感謝します。

ウィメンズマラソン(エリートの部)

1	ルース・チェブングティッチ(ケニア)	2.17.18	大会新
2	ロナチャムタイ・サルピーター(イスラエル)	2.18.45	大会新
3	安藤 友香(ワコール)	2.22.22	
4	細田 あい(エディオン)	2.24.26	新人賞
5	鈴木 優花(大東文化大学)	2.25.02	学生新
6	エロイーズ・ウェリングズ(オーストラリア)	2.25.10	
7	福良 郁美(大塚製薬)	2.25.15	
8	太田 琴菜(JP日本郵政グループ)	2.25.26	

ホイールチェアマラソン(10km)

1	土田和歌子	21.37
2	喜納 翼	21.37
3	安川祐里香	27.53
4	正木 楓	28.47
5	金浦 貴子	30.25
6	竹下いづみ	30.38

愛知選手権女子マラソン

2022年3月13日(日)バンテリンドーム名古屋発着

1	中村 瑠花(Run up)	2.50.55
2	佐橋 京子(庄内RT)	2.52.52
3	横山友里乃(AC一宮)	2.53.05
4	堀木なお子(CR2 中日本)	2.53.31
5	古賀 夕貴(西三河陸協)	2.54.39
6	坂川真由美(AC一宮)	2.57.07

名古屋シティマラソン2022

2022年3月13日(日)バンテリンドーム名古屋発着

ハーフマラソン 男子の部

1	牛山 純一	1.05.12
2	當山 凌司	1.06.36

3	平岩 篤弥	1.06.52
4	原田 拓	1.08.04
5	柴田 憲志	1.08.35
6	園田 英義	1.08.37

ハーフマラソン 女子の部

1	河村英理香	1.20.35
2	松井恵里奈	1.26.47
3	今泉 美喜	1.29.33
4	尾崎 瑠美	1.29.54
5	石井 靖子	1.33.46
6	太田 茜	1.36.15

10km 男子の部

1	風見 尚	31.09
2	山本 起弘	32.29
3	浅野 竜也	32.35
4	蒲池 直樹	32.41
5	神谷 泰光	32.50
6	山内 康平	32.54

10km 女子の部

1	富田奈乃香	36.26
2	服部 優重	40.34
3	森下真由美	44.13
4	森口 りな	44.43
5	三井 遥香	45.10
6	関 真優	47.12

理事会等会議報告

○12月理事会 令和3年12月6日(月)18:00 教育会館

1. 協議事項

- ①全国都道府県対抗女子駅伝・男子駅伝選手選考について
- ②各種栄章候補者について
- ③愛知県スポーツ協会被表彰者について
- ④審判員昇格候補者について
- ⑤その他

2. 報告事項

- ①令和4年度日本陸連主要競技会について
- ②各種大会結果報告
- ③陸連関係会議報告
- ④各専門委員会報告
- ⑤各陸協、協力団体より

○1月理事会 令和4年1月26日(水) 教育会館

1. 協議事項

- (1) 令和4年度年間競技日程について
- (2) 審判昇格候補者について
- (3) その他

2. 報告事項

- (1) マラソンフェスティバル ナゴヤ・愛知について
- (2) 各専門委員会報告
- (3) 各陸協・協力団体からの報告
- (4) その他

○2月理事会 令和4年2月25日(金) 教育会館

1. 協議事項

- (1) 令和4年度年間競技日程について
- (2) その他

2. 報告事項

- (1) マラソンフェスティバル ナゴヤ・愛知について
- (2) 各専門委員会報告
- (3) 各陸協・協力団体からの報告
- (4) その他

(水野 隆夫)

栄章

おめでとうございます

令和3年度愛知県スポーツ協会表彰

・功労賞

岩瀬 一 山村 晃泰

・特別優秀選手賞(オリンピック、パラリンピック入賞)

山西 利和 大島 健吾 石田 駆 蒔田沙弥香
山本萌恵子

・優秀選手・監督賞

(オリンピック、パラリンピック出場)

山西 利和 山口 浩勢 山本 聖途 丸尾 知司
服部 勇馬

(日本選手権大会等優勝)

河村 一輝 西 徹朗 高橋 遼将 青山 理奈
前田 紗希 倉橋 美穂 福本 萌菜 藏重 みう

(水野 隆夫)

おくやみ

長年本県の陸上競技の発展のため、多大なるご尽力をいただきましてありがとうございました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。(敬称略)

逝去者氏名	逝去年月	地区名
安庭 史應	R 3・11	名古屋
鶴田 政之	R 3・12	西三河

編集後記

◇コロナ対策中でも駅伝・マラソン等に好記録が見られ、レベルアップを感じる。◇新しい練習の仕方や競技運営方法を探りつつ、新年度の陸上界の更なる飛躍を願う。◇多忙中にもかかわらず寄稿してくださった方々に深謝。

編集委員

大西 敏功 小坂 拓 鈴木人呂信 竹前 正直
茶谷 和彦 新見 精三 野口 一昭 兵藤 重二
山下ゆかり